

山縣有朋 陸軍 陸軍軍人、政治家。天保九年閏四月、二十一歳長門國生れ、大正十一年二月一日歿（二八六一九三）。幼名辰之助、小輔、小助、通稱狂介、山縣朋。變名花原鹿之助、首羽大助。號古稀庵主、舍雪、舍雪樓主、舍雪樓主人、小海庵主、椿山莊主、源有朋、無隣庵主、素狂、芋城、芋城山人等。松下村塾に學び、戊辰戰に從軍。明治二年歐米視察、六年初代陸軍卿、翌年參議兼任、この間軍制、徵兵制を確立。西南役を鎮定後參謀本部長、參事院議長、内務卿歴任。十八年内相となり地方制度を確立して警察制度を改革。二十一年組閣、翌五年大將、のち法相、樞密院議長を經て日清戰爭と第一軍司令官、大本營監事兼陸相、二十一年元帥、第一次組閣。日露戰爭には參謀總長兼兵站總監。その後元老として藩閥勢力を代表。公爵。

著書 『日清戰役各將文集』（合著・菅原保久編著、第一編・明治二十二年

五月二十日、第二編・二十二年四月二十九日愛知・筆文社）、『各士

の嗜好』（合著・中央新聞社編、明治二十二年一月二十一日文武堂）、

『維新戰役實歴談』（合著、大正六年十月十四日維新戰死者五十年祭

事務所編刊）、『明治憲政經濟史論』（合著、大正八年四月十五日國

家學會）、遺稿『越の山嵐』（鶴本丑之介編、昭和十四年十一月一日

東京書房）、『陸軍省沿革史』（各著・松下共勇解題、昭和十七年十

二月、二十五日日本評論社「明治文化叢書」。堀内文治郎 平山 正執筆）等。

文獻『わいの山集』（明治二十七年十一月二十九日山縣伊三郎刊）、

坂本真山著『公論山縣有朋』（大正十一年二月十八日全誠堂書店）、

入江貫一著『山縣ハムのおとがけ』（大正十一年九月八日博文館）、高

橋義雄著『山縣遺烈』（大正十四年四月、二十五日慶文堂書店）、岡義

武著「山縣有朋―明治日本の象徴―」（昭和二十二年五月十七日岩波書
 店「岩波新書」）、御手洗辰雄著「山縣有朋」（昭和二十二年十一月
 一日所專齋信社「二代宰相列伝」）、小林幸雄著「大森鐘一と山縣有
 朋―自由民権対策と地方自治觀の研究―」（平成元年四月一日出版文化
 社）等。